

〔A〕次の古語の訳語として最も適当なものを選び、番号で答えよ。

- | | | | |
|------|------|------|------|
| 1 うち | 1 うち | 1 うち | 1 うち |
| ①屋内 | ②離宮 | ③宮中 | ④境内 |
-
- | | | | |
|------|------|------|------|
| 2 ひま | 2 ひま | 2 ひま | 2 ひま |
| ①すき間 | ②ふだん | ③暗闇 | ④遠い所 |
-
- | | | | |
|------|------|------|---------|
| 3 うへ | 3 うへ | 3 うへ | 3 うへ |
| ①主人 | ②御子 | ③天皇 | ④身分の高い人 |
-
- | | | | |
|--------|--------|--------|--------|
| 4 よのなか | 4 よのなか | 4 よのなか | 4 よのなか |
| ①言葉の意味 | ②ものの道理 | ③身分の程度 | ④男女の仲 |
-
- | | | | |
|-------|-------|-------|-------|
| 5 せうそ | 5 せうそ | 5 せうそ | 5 せうそ |
| ①うわさ | ②贈り物 | ③手紙 | ④様子 |
-
- | | | | |
|--|--|--|--|
| 6 帝よりはじめ奉りて、大臣公卿みな悉く移ろひ給ひぬ。世に仕ふるほどの人、たれか一人ふるさとには残りをらむ。 | 6 帝よりはじめ奉りて、大臣公卿みな悉く移ろひ給ひぬ。世に仕ふるほどの人、たれか一人ふるさとには残りをらむ。 | 6 帝よりはじめ奉りて、大臣公卿みな悉く移ろひ給ひぬ。世に仕ふるほどの人、たれか一人ふるさとには残りをらむ。 | 6 帝よりはじめ奉りて、大臣公卿みな悉く移ろひ給ひぬ。世に仕ふるほどの人、たれか一人ふるさとには残りをらむ。 |
| （方丈記） | （方丈記） | （方丈記） | （方丈記） |
-
- | | | | |
|----------------------------|----------------------------|----------------------------|----------------------------|
| 7 御方しも、受領の妻にて品定まりておはしまさむよ。 | 7 御方しも、受領の妻にて品定まりておはしまさむよ。 | 7 御方しも、受領の妻にて品定まりておはしまさむよ。 | 7 御方しも、受領の妻にて品定まりておはしまさむよ。 |
| （源氏物語） | （源氏物語） | （源氏物語） | （源氏物語） |
-
- | | | | |
|---------------------------------------|---------------------------------------|---------------------------------------|---------------------------------------|
| 8 鶴の大臣殿は、童名たづ君なり。鶴を飼ひ給ひける故にと申すは、僻事なり。 | 8 鶴の大臣殿は、童名たづ君なり。鶴を飼ひ給ひける故にと申すは、僻事なり。 | 8 鶴の大臣殿は、童名たづ君なり。鶴を飼ひ給ひける故にと申すは、僻事なり。 | 8 鶴の大臣殿は、童名たづ君なり。鶴を飼ひ給ひける故にと申すは、僻事なり。 |
| （徒然草） | （徒然草） | （徒然草） | （徒然草） |
-
- | | | | |
|----------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|
| 9 門さしつ。死ぬるなりけり。消息いひ入るれど、なにのかひなし。 | 9 門さしつ。死ぬるなりけり。消息いひ入るれど、なにのかひなし。 | 9 門さしつ。死ぬるなりけり。消息いひ入るれど、なにのかひなし。 | 9 門さしつ。死ぬるなりけり。消息いひ入るれど、なにのかひなし。 |
| （大和物語） | （大和物語） | （大和物語） | （大和物語） |
-
- | | | | |
|--------------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|
| 10 世に語り伝ふること、まこととはいなきにや、多くはみなそら」となり。 | 10 世に語り伝ふること、まこととはいなきにや、多くはみなそら」となり。 | 10 世に語り伝ふること、まこととはいなきにや、多くはみなそら」となり。 | 10 世に語り伝ふること、まこととはいなきにや、多くはみなそら」となり。 |
| （徒然草） | （徒然草） | （徒然草） | （徒然草） |
-
- | | | | |
|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|
| 11 少ないようなのにまさるものはない。 | 11 少ないようなのにまさるものはない。 | 11 少ないようなのにまさるものはない。 | 11 少ないようなのにまさるものはない。 |
| （徒然草） | （徒然草） | （徒然草） | （徒然草） |
-
- | | | | |
|---------------------------------|---------------------------------|---------------------------------|---------------------------------|
| 12 あまたあらむ中にも、こころばへ見てぞ率てありかまほしき。 | 12 あまたあらむ中にも、こころばへ見てぞ率てありかまほしき。 | 12 あまたあらむ中にも、こころばへ見てぞ率てありかまほしき。 | 12 あまたあらむ中にも、こころばへ見てぞ率てありかまほしき。 |
| （枕草子） | （枕草子） | （枕草子） | （枕草子） |
-
- | | | | |
|---|---|---|---|
| 13 長き夜をひとり明かし、遠き雲居を思ひやり、浅茅が宿に昔を偲ぶこそ、色好むとは言はぬ。 | 13 長き夜をひとり明かし、遠き雲居を思ひやり、浅茅が宿に昔を偲ぶこそ、色好むとは言はぬ。 | 13 長き夜をひとり明かし、遠き雲居を思ひやり、浅茅が宿に昔を偲ぶこそ、色好むとは言はぬ。 | 13 長き夜をひとり明かし、遠き雲居を思ひやり、浅茅が宿に昔を偲ぶこそ、色好むとは言はぬ。 |
| （徒然草） | （徒然草） | （徒然草） | （徒然草） |
-
- | | | | |
|------------------------------|------------------------------|------------------------------|------------------------------|
| 14 罪のかぎり果てぬれば、かく迎ふるを、翁は泣き嘆く。 | 14 罪のかぎり果てぬれば、かく迎ふるを、翁は泣き嘆く。 | 14 罪のかぎり果てぬれば、かく迎ふるを、翁は泣き嘆く。 | 14 罪のかぎり果てぬれば、かく迎ふるを、翁は泣き嘆く。 |
| （竹取物語） | （竹取物語） | （竹取物語） | （竹取物語） |
-
- | | | | |
|---|---|---|---|
| 15 ①事情 | 15 ①事情 | 15 ①事情 | 15 ①事情 |
| （詫）（かぐや姫の）罪の「」が償われたので、こうして（月から）迎えに来たのを、翁は泣いて嘆く。 | （詫）（かぐや姫の）罪の「」が償われたので、こうして（月から）迎えに来たのを、翁は泣いて嘆く。 | （詫）（かぐや姫の）罪の「」が償われたので、こうして（月から）迎えに来たのを、翁は泣いて嘆く。 | （詫）（かぐや姫の）罪の「」が償われたので、こうして（月から）迎えに来たのを、翁は泣いて嘆く。 |
| ②理由 | ②理由 | ②理由 | ②理由 |
| ③ご不満 | ③ご不満 | ③ご不満 | ③ご不満 |
| ④お詫び | ④お詫び | ④お詫び | ④お詫び |

〔B〕次の文の（訳）の「」に入る語句として最も適当なものを選び、番号で答えよ。

6 帝よりはじめ奉りて、大臣公卿みな悉く移ろひ給ひぬ。世に仕ふるほどの人、たれか一人ふるさとには残りをらむ。

（方丈記）

（訳）天皇をはじめといたして、大臣公卿全員（福原京に）移りなさつた。朝廷に仕える身分の人は、いつたいだれが一人でも「」に残つていようか。

①故郷 ②宮中 ③古都 ④自邸

7 御方しも、受領の妻にて品定まりておはしまさむよ。

（源氏物語）

（訳）よりによつてお嬢様が、受領の妻として「」が定まつてしまわれるだらうよ。

①品位 ②夫 ③運命 ④身分

8 鶴の大臣殿は、童名たづ君なり。鶴を飼ひ給ひける故にと申すは、僻事なり。

（徒然草）

（訳）鶴の大臣殿は、幼名はたづ君である。鶴をお飼いになつていたからと申すのは、「」である。

①本当 ②失礼 ③うわさ ④間違い

9 門さしつ。死ぬるなりけり。消息いひ入るれど、なにのかひなし。

（大和物語）

（訳）（季縄の少将の家は）門を閉じていた。（季縄は）死んだのだった。（公忠は）「」（して来意）を告げた

けれども、なんの意味もない。

①確認 ②伝言 ③訪問 ④連絡

10 世に語り伝ふること、まこととはいなきにや、多くはみなそら」となり。

（徒然草）

（訳）世間で語り伝えていることは、眞実はつまらないのであるうか、多くはみな「」である。

①嘘 ②うわさ ③事実 ④無駄

11 よろづのとがあらじと思はば、何事にもまことありて、人を分かず、うやうやしく、言葉少なからんにはしかじ。

（徒然草）

（訳）すべての「」をなくしたいと思うのならば、何事にも誠意があつて、人を分け隔てず、礼儀正しく、口数が少ないようなのにまさるものはない。

①敵 ②争い ③欠点 ④原因

12 あまたあらむ中にも、こころばへ見てぞ率てありかまほしき。

（枕草子）

（訳）（お供の者は）たくさんいるような従者の中でも、「」を見て連れて回りたいものだ。

①性格 ②本心 ③心遣い ④容貌

13 長き夜をひとり明かし、遠き雲居を思ひやり、浅茅が宿に昔を偲ぶこそ、色好むとは言はぬ。

（徒然草）

（訳）（恋に破れて）長い夜をひとりで明かし、はるか「」を想像し、茅の茂る荒れ果てた家で昔を懐かしむ」とこそ、恋の情趣を解すると言えよう。

①天上 ②昔 ③遠く離れた所 ④都

14 え参らぬ由のかしこまり申し給へり。

（源氏物語）

（訳）（大臣は宮のもとに）参上できないことの「」を申し上げなさつた。

①事情 ②理由 ③ご不満 ④お詫び

15 罪のかぎり果てぬれば、かく迎ふるを、翁は泣き嘆く。

（竹取物語）

（詫）（かぐや姫の）罪の「」が償われたので、こうして（月から）迎えに来たのを、翁は泣いて嘆く。

①根本 ②すべて ③いくつか ④最期

15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1
〔 〔 〔 〔 〔 〔 〔 〔 〔 〔 〔 〔 〔 〔 〔 〔
② ④ ③ ① ③ ① ③ ④ ④ ③ ③ ④ ③ ①
〕 〕 〕 〕 〕 〕 〕 〕 〕 〕 〕 〕 〕 〕 〕 〕